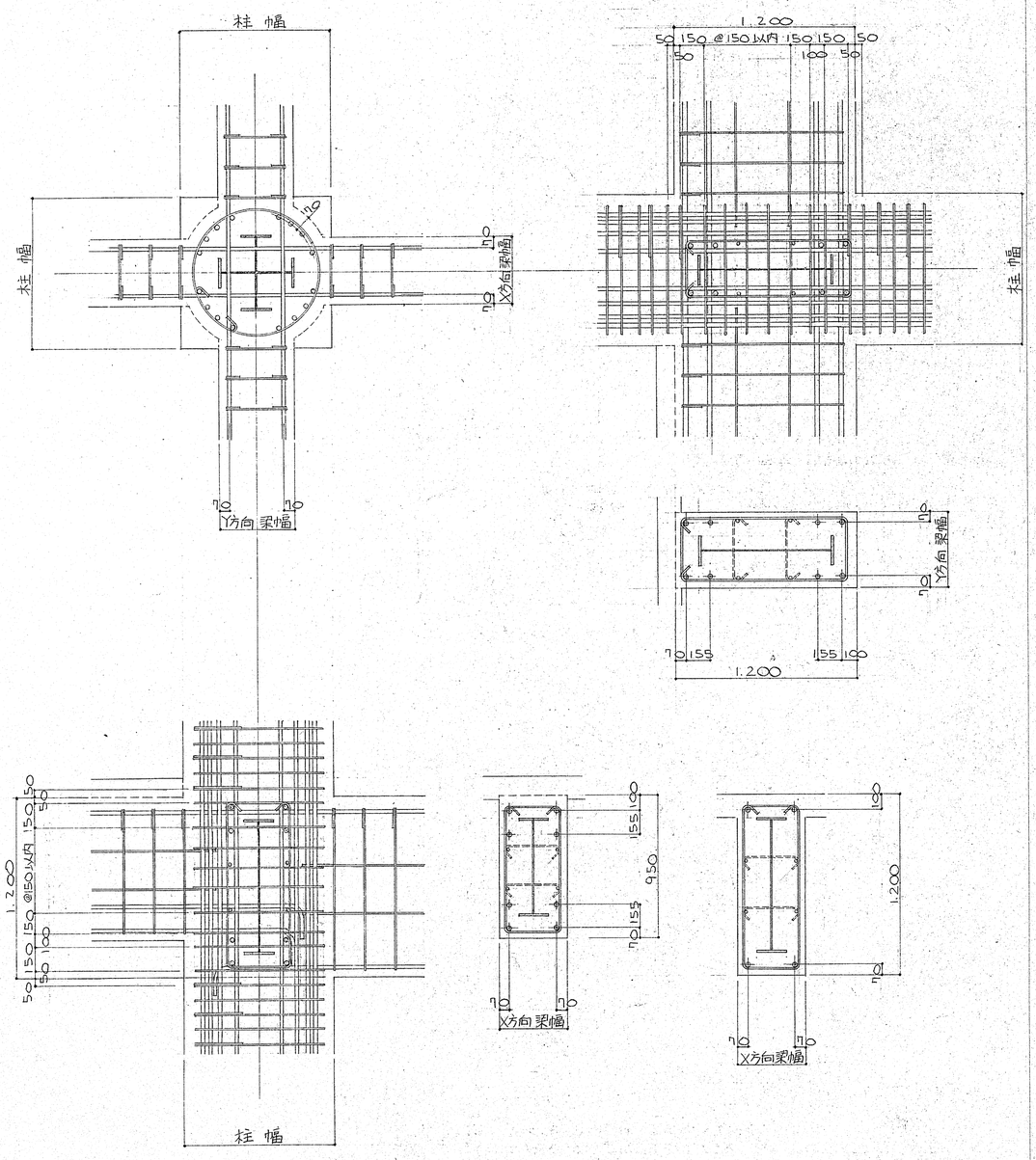
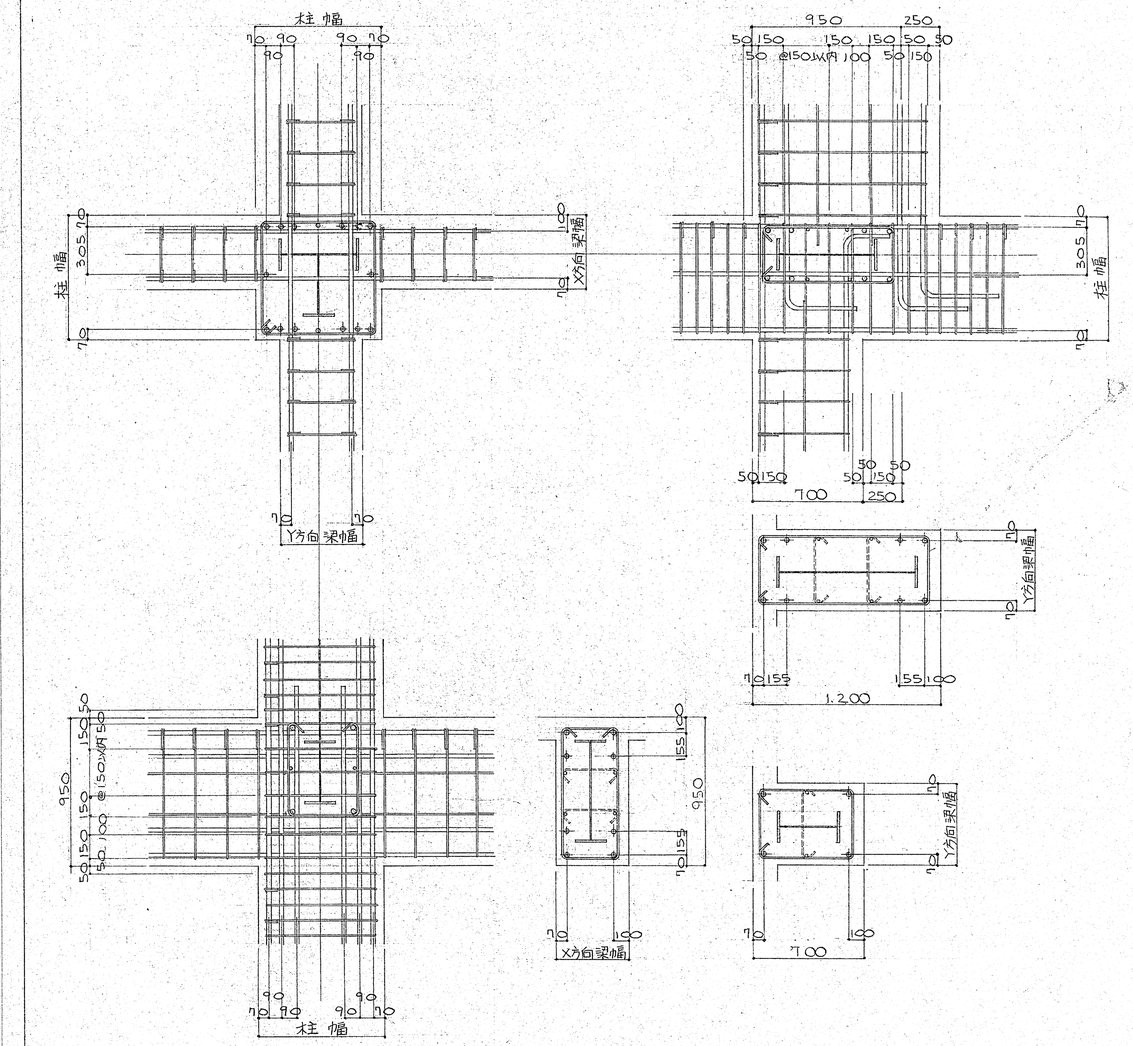
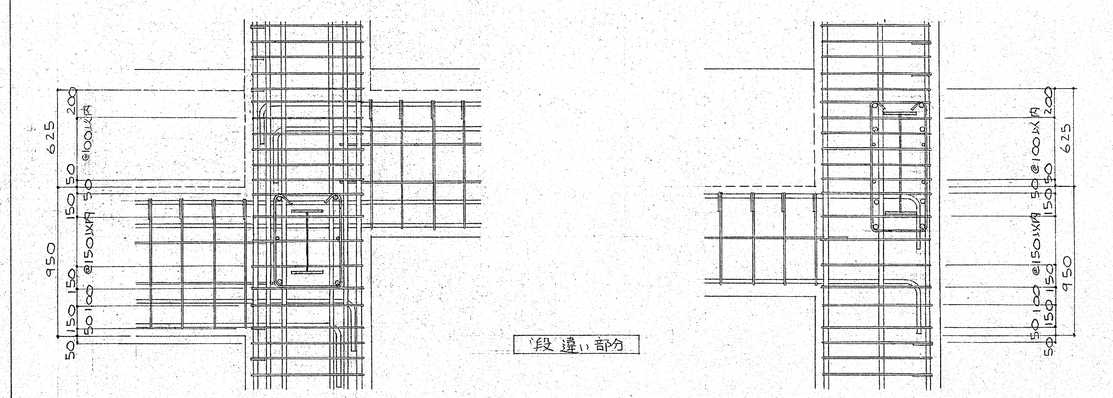
配筋要領図 (1)



配筋要領図 (2)





着工	53. 1. 16	
竣工	55. 7. 30	
監理者	宗 [illegible]	
施工	竹中工務店	

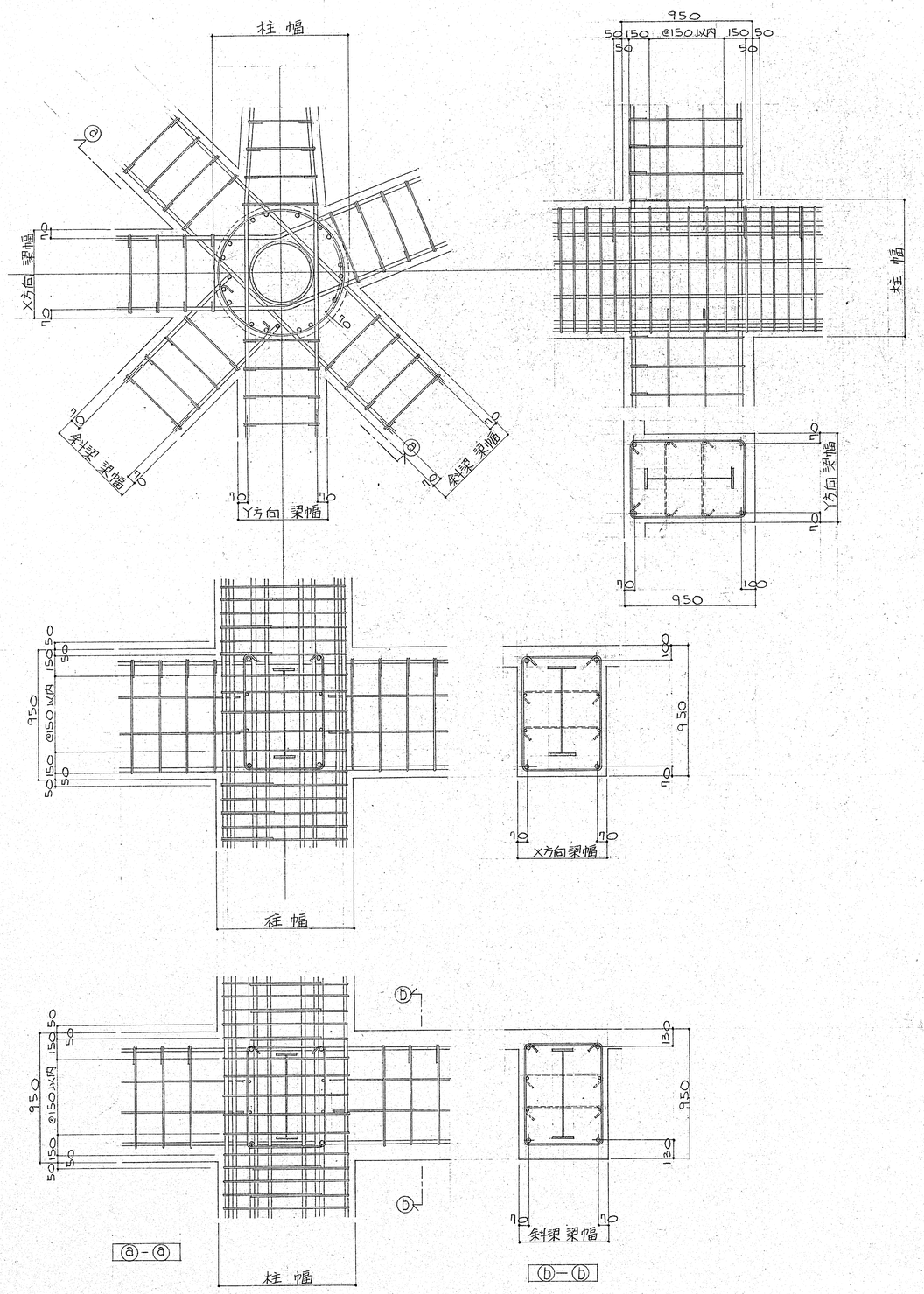
府中駅北口市民施設(仮称)新築工事

配筋要領図 (1) 1/20

36 - 27

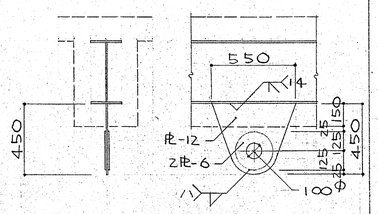
No. T - 521122 -

配筋要領図 (3)

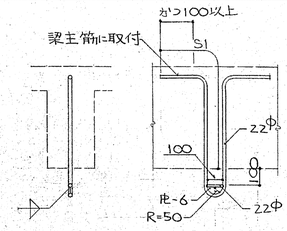


雑 配筋詳細図

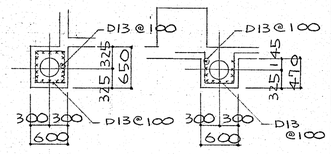
2通り側エレベーター用吊フック 1/20



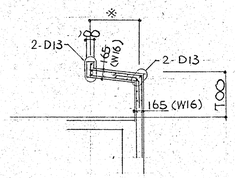
11通り側エレベーター用吊フック 1/20



8通り煙突配筋図 1/50

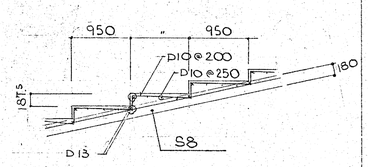


1階腰壁配筋図 1/50



(W16) ｱﾝｶｰ筋 D10・D13 @200 ダブル

客席床スラブ補強配筋図 1/50



設工	53. 1. 16	
竣工	55. 7. 30	
監理	安藤白蟻	
施工	竹中工務店	

府中駅北口市民施設(仮称)新築工事

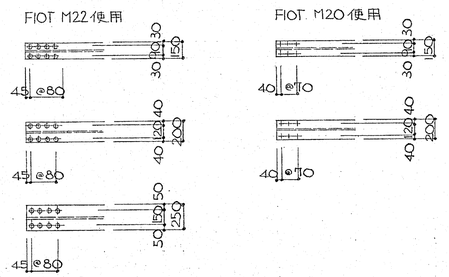
配筋要領図 (2) 1/20

㊞ 36 - 28

No. T - 521122

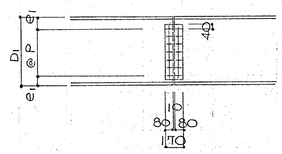
鉄骨継手リスト

柱・梁 フランジ継手



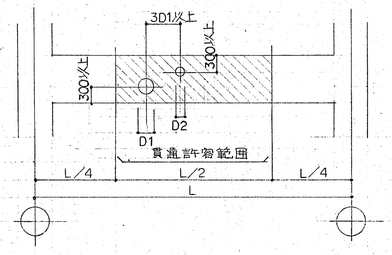
フランジプレート (厚×幅)	高力ボルト (FIOT)	添板プレート (厚×幅) 外側	内側	備考
PL-16×150	4-M20	2PL-12×65	2PL-12×65	
PL-16×200	6-M20	PL-9×200	2PL-12×80	
PL-19×200	6-M20	PL-12×200	2PL-16×80	
PL-22×150	10-M22	PL-22×150		
PL-22×200	8-M22	PL-12×200	2PL-16×80	
PL-25×200	10-M22	PL-16×200	2PL-19×80	
PL-25×250	12-M22	PL-16×250	2PL-19×100	
PL-25×150	14-M22	PL-25×150		

梁ウェブ継手

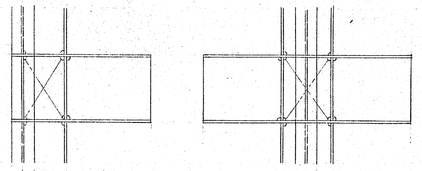


ウェブプレート (厚×D1(梁成))	高力ボルト (FIOT)	添板プレート (厚×幅)	備考
PL-9×250	2-M20	2PL-6×170	P=100 e1=75
PL-9×400	4-M20	2PL-6×170	P=75 e1=87.5
PL-9×650	7-M20	2PL-9×170	P=75 e1=100
PL-9×1.880	17-M20	2PL-9×170	P=100 e1=140
PL-9×650	7-M20	2PL-9×170	P=75 e1=100

梁貫通補強図

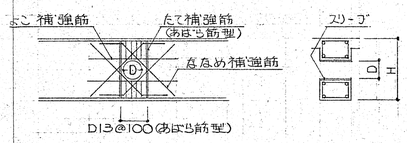


シヤパネル基準図



(注) シヤパネルは、X・Y方向の梁ウェブ材及び上・下柱ウェブ材の中でも・とも厚い材と同厚・同種のプレートを用いる。
(クロス柱も同じ要領で行う。)

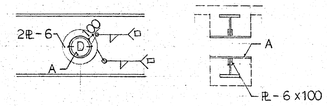
梁の鉄筋コンクリート部分貫通補強図



貫通孔径D	たて補強筋	よこ補強筋	ななめ補強筋	備考
D≦100	なし	なし	なし	
100<D≦200	1組 S.t	2-D16	2-D16	
200<D≦300	2組 S.t	2-D19	2-D19	
D=500	3組 S.t	2-D22	2-D22	

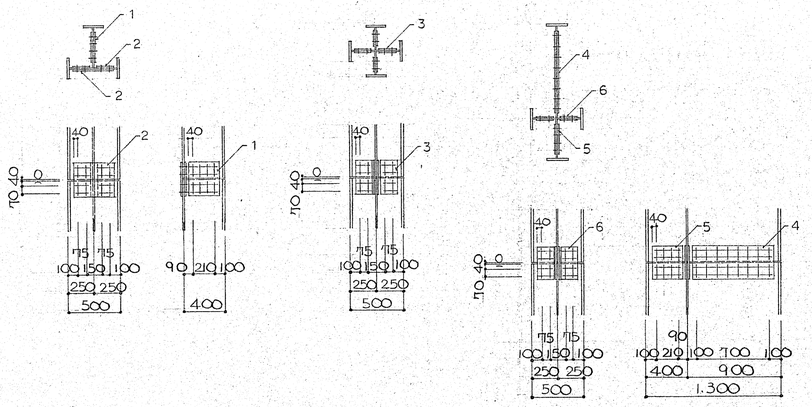
(注) 補強筋長さは D+2S1 とする。
D≦H/3とし設計図に示されない箇所については、係員の指示に従う。

梁の鉄骨部分貫通補強図

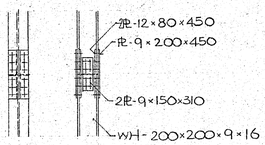


貫通口径D	A	備考
100φ	114.3^3φ×4.5^9	
150φ	165.2^3φ×4.5^9	
200φ	216.3^3φ×5.8^1	
250φ	267.4^3φ×6.6^1	
300φ	318.5^3φ×6.9^1	

柱ウェブ継手



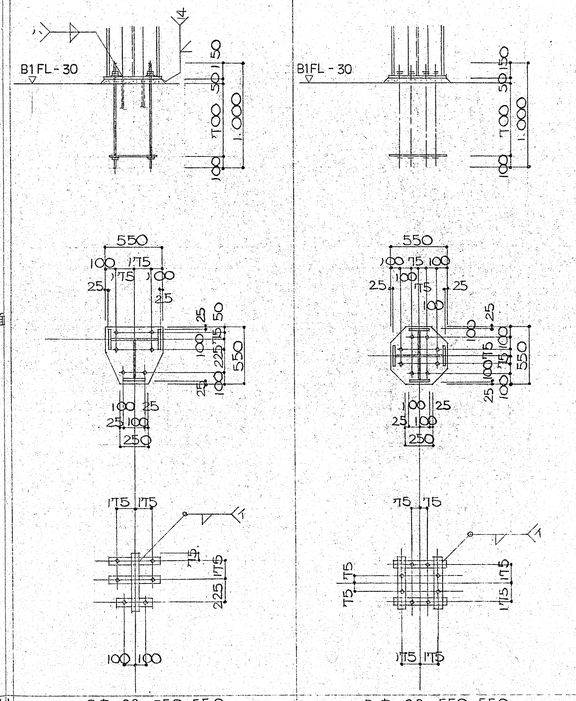
	ウェブプレート	高力ボルト (FIOT)	添板プレート (厚×幅×長さ)	備考
1	PL-9	8-M20	2PL-9×310×290	
2	PL-9	8-M20	2PL-9×310×155	
			PL-9×310×380	
3	PL-9	4-M20	2PL-9×310×155	
4	PL-9	16-M20	2PL-9×310×780	
5	PL-9	8-M20	2PL-9×310×290	
6	PL-9	4-M20	2PL-9×310×155	



P9柱 (FIOT M20)
P10柱

柱脚リスト

(注1) モルタルは無収縮モルタル使用.

符号	C1・C2・C3・C3a・C3b・C3c・C3d・C6	C5・C7・C10	C7a・C8・C9・C9a・C12	C4・C4a
断面				
ベースプレート	B.PL-22×550×550	B.PL-22×550×550	B.PL-22×700φ	B.PL-550×1.350
アンカーボルト	6-M20 ℓ=1.000	8-M20 ℓ=1.000	8-M20 ℓ=1.000	8-M20 ℓ=1.000
アンカーフレーム	FB-65×6	FB-65×6	PL-6×100×700 (外径)	FB-65×6
備考				

着工	53. 1. 16	
竣工	55. 7. 30	
監理	西元 敬[illegible]	
施工	竹中工務店	

府中駅北口市民施設(仮称)新築工事

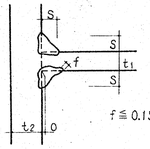
構 36-29

鉄骨継手リスト・柱脚リスト 1/30

No. T-521122

1 隅肉溶接

$t_2 \geqq t_1$



$f \leqq 0.1S + 1$

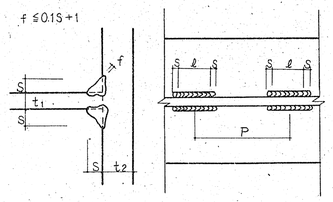
(注) イ. $t_1 > 19$ / ロ. $t_1 > 16$ / ハ. $t_1 > 12$ の場合はK型突合部分溶込溶接とする

継手仕口形状	薄いほうの母材の厚さ				
	6	9	12	16	19
イ. フランジとウェブ、リブ	5	6	7.5	10	12
ロ. 剪断力を伝える	6	7	9.5	13	
ハ. 軸方向力を伝える	8	11	15		

2 断続隅肉溶接

注) 脚長 (S) 溶接長 (ℓ) 及 溶接ピッチ (P) は特記する。

$f \leqq 0.1S + 1$

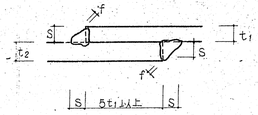


$t_1 \leqq t_2$　　$\ell \geqq 10S$ 且つ 40 mm

3 隅肉溶接(重ね継手)

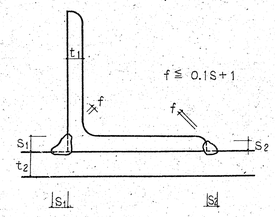
注) 脚長 (S) 決定はディテール [1] に倣う。

$f \leqq 0.15 + 1$



脚長は板厚の異なる場合 薄い板で決める。

4 隅肉溶接



$f \leqq 0.1S + 1$

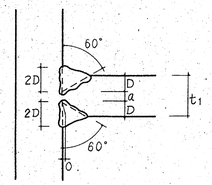
注) S1は脚長で2S2か溶接長で2倍とする。

脚長 (S) 決定は [1] 詳細に倣う。

5 K型突合部分溶込溶接

イ: 一般

ロ: 継手及仕口で軸方向力の伝達を目的とする場合



a の値

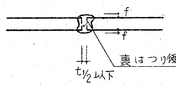
t_1	16	19	22	25	28	32	36	40
イ		8	9	11	12	14	15	17
ロ	0～1							

6

7 I 型突合せ溶接

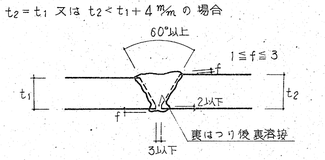
$t \leqq 6$

$1 \leqq f \leqq 3$

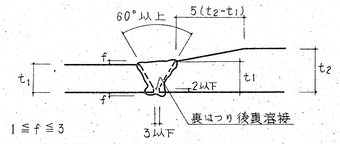


8 V型突合せ溶接

$t_2 = t_1$ 又は $t_2 < t_1 + 4$ mm の場合



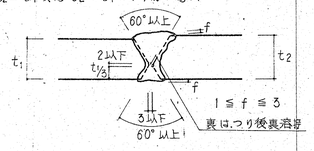
$t_2 \geqq t_1 + 4$ mm の場合



$1 \leqq f \leqq 3$

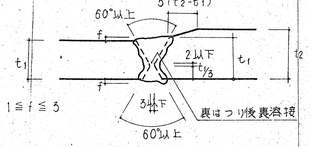
9 X型突合せ溶接

$t_2 = t_1$ 又は $t_2 < t_1 + 4$ mm の場合



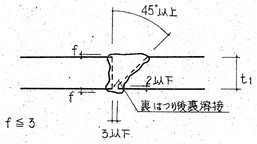
$1 \leqq f \leqq 3$

$t_2 \geqq t_1 + 4$ mm の場合



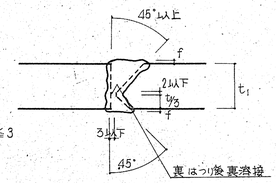
$1 \leqq f \leqq 3$

10 レ型突合せ溶接



$1 \leqq f \leqq 3$

11 K型突合せ溶接

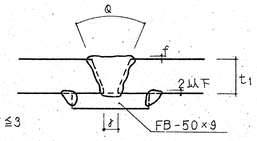


$1 \leqq f \leqq 3$

12 V型突合せ溶接

$t_1 \leqq 19$ の場合 $\gamma = 7$　$\theta \geqq 45°$

$t_1 > 19$ の場合 $\gamma = 9$　$\theta \geqq 35°$

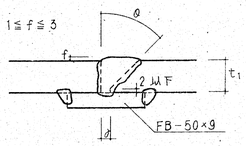


$1 \leqq f \leqq 3$

13 レ型突合せ溶接

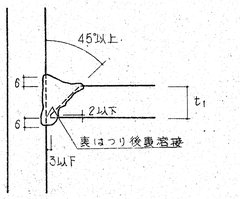
$t_1 \leqq 19$ の場合 $\gamma = 7$　$\theta \geqq 45°$

$t_1 > 19$ の場合 $\gamma = 9$　$\theta \geqq 35°$

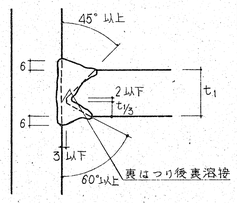


$1 \leqq f \leqq 3$

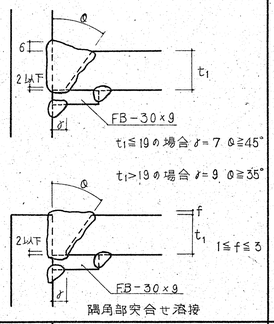
14 レ型突合せ溶接



15 K型突合せ溶接



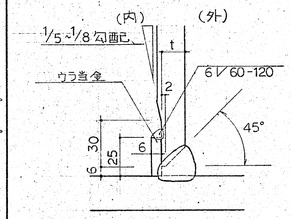
16 レ型突合せ溶接



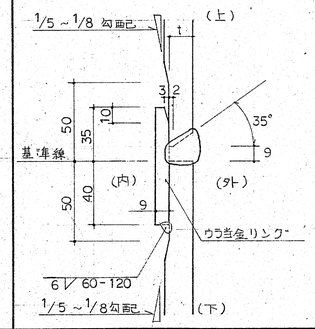
$1 \leqq f \leqq 3$

隅角部突合せ溶接

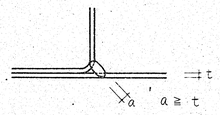
17 レ型突合せ溶接



18 レ型突合せ溶接

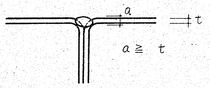


19 フレアーレ型グループ溶接



$a \geqq t$

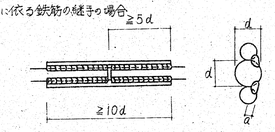
20 フレアーV型グループ溶接



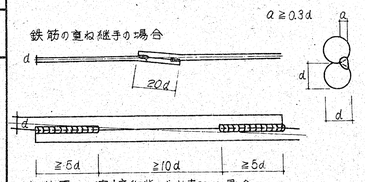
$a \geqq t$

21 フレアーX型グループ溶接

添筋に依る鉄筋の継手の場合



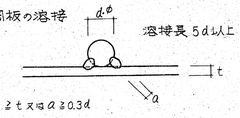
鉄筋の重ね継手の場合



(注) 片面しか溶接作業が出来ない場合

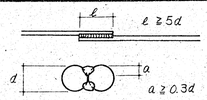
22 フレアーK型グループ溶接

鉄筋と鋼板の溶接



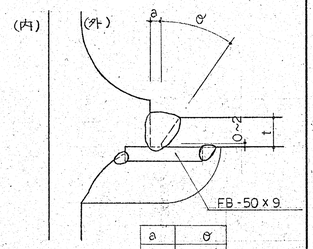
$a \geqq t$ 又は $a \geqq 0.3d$

23 フレアーX型グループ溶接



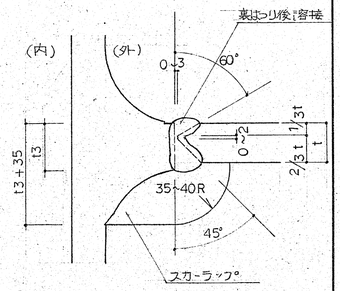
(注) 原則として両面溶接とするが片面溶接を使用する場合は [21] 詳細に倣う。

23 レ型突合せ溶接

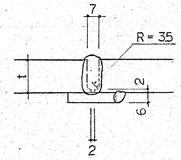


a	θ
6	45°
9.5	35°

24 K型突合せ溶接



25 U型突合せ溶接



着工	53. 1. 16	
竣工	55. 7. 30	
監理	岳建築	
施工	神工務店	

この基準図は手溶接に依る標準溶接継手の形状を示し特記なき限りこれに従う。

府中駅北口市民施設(仮称)新築工事

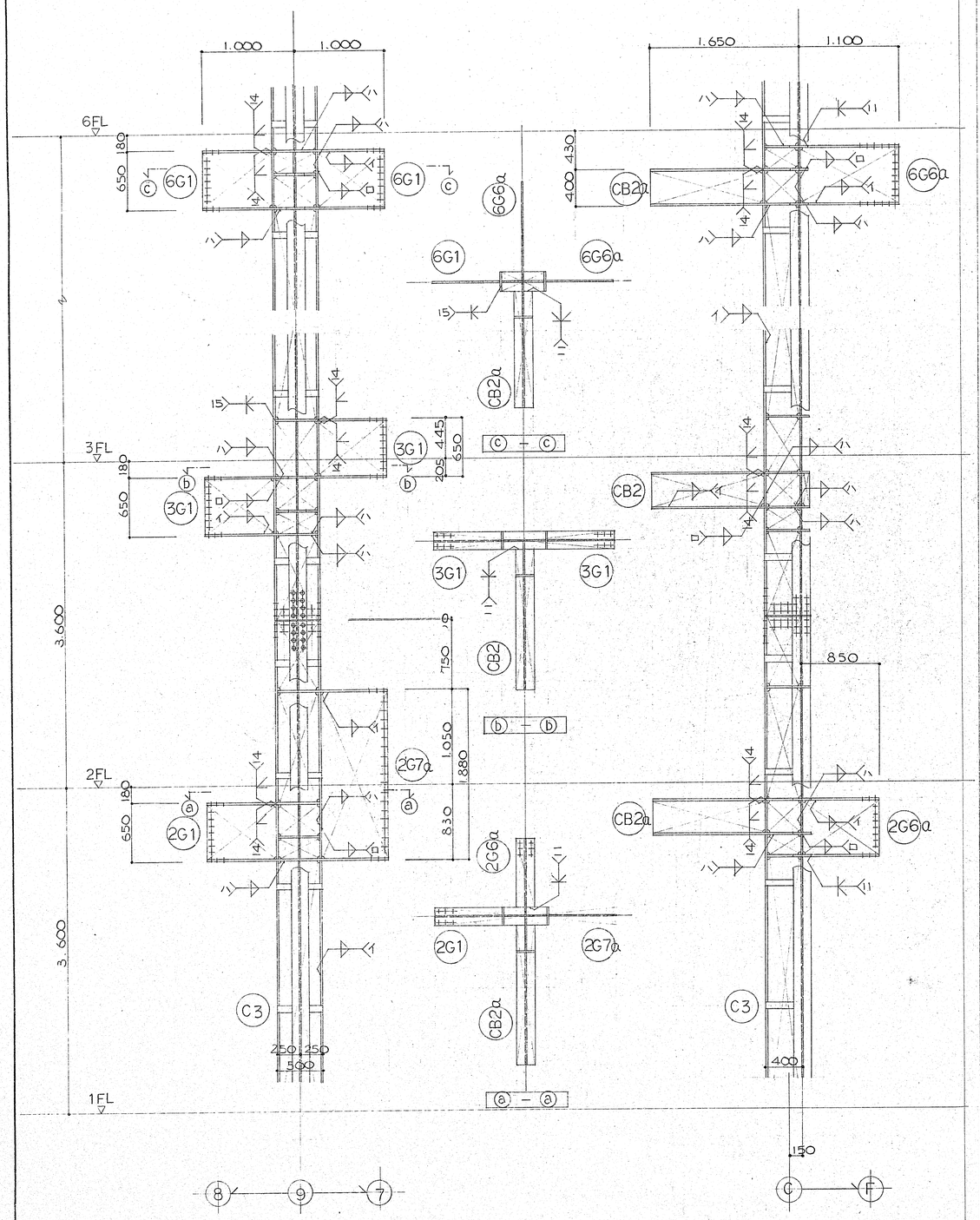
溶接継手基準図

構 36 - 30

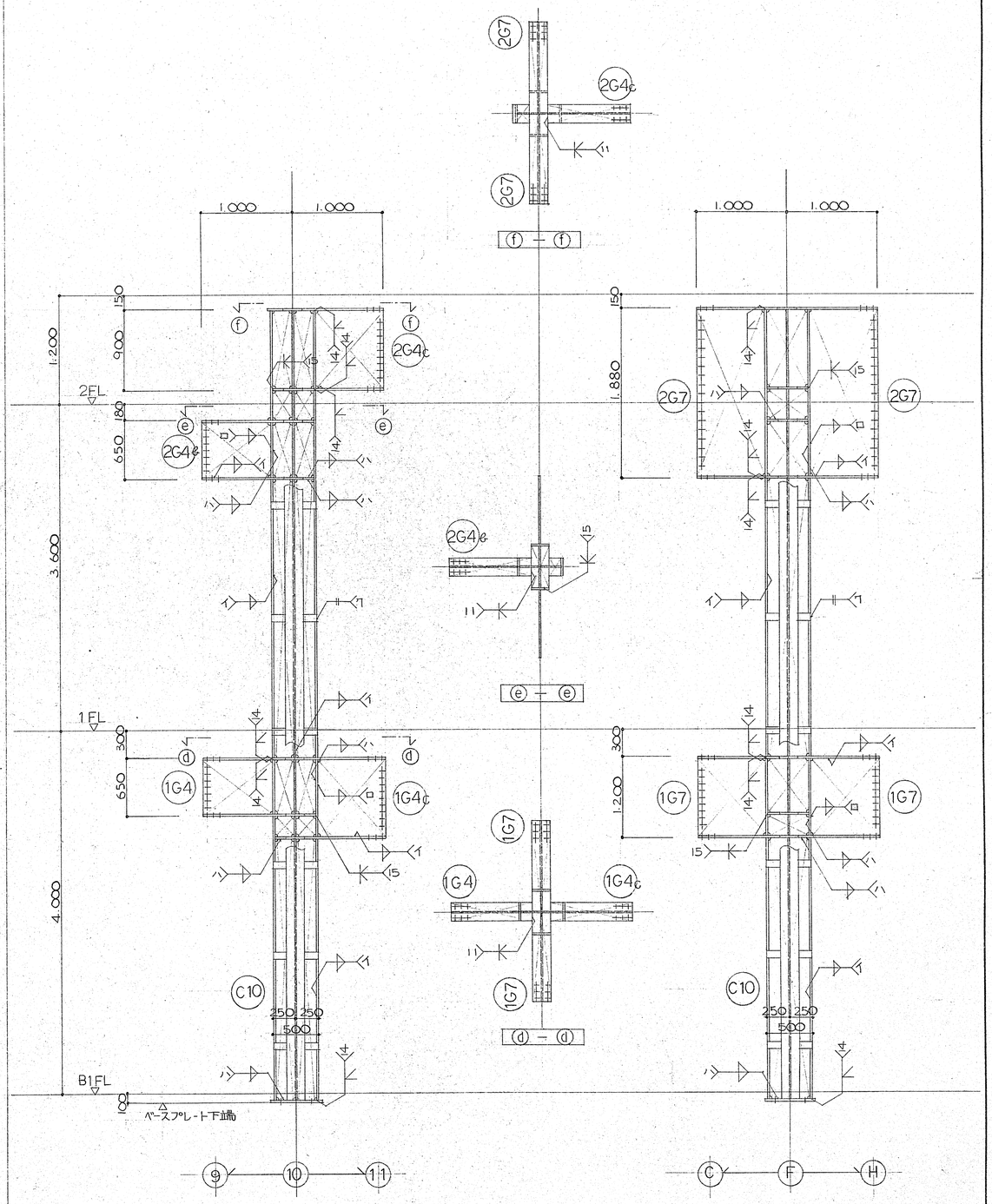
No. T - 521122 -

©

鉄骨加工要領図 (1)



鉄骨加工要領図 (2)



原工	53. 1. 16	
変工	55. 7. 30	
監理	藤・岡・[illegible]	
施工	竹中工務店	

共通事項

1. 溶接符において ⌵14 ・ ⌵15 の適用範囲は下記に示す。
   巾-19以下 ⌵14 ・ 巾-22以上 ⌵15
2. 溶接符号において ⌵10 ・ ⌵11 の適用範囲は下記に示す。
   巾-19以下 ⌵10 巾-22以上 ⌵11

3. ボルト表示
   + M20 (F10T) ピッチ @70 へりあき 40 はしあき 40
   ⌖ M22 (F10T) 〃 @80 〃 40 〃 45

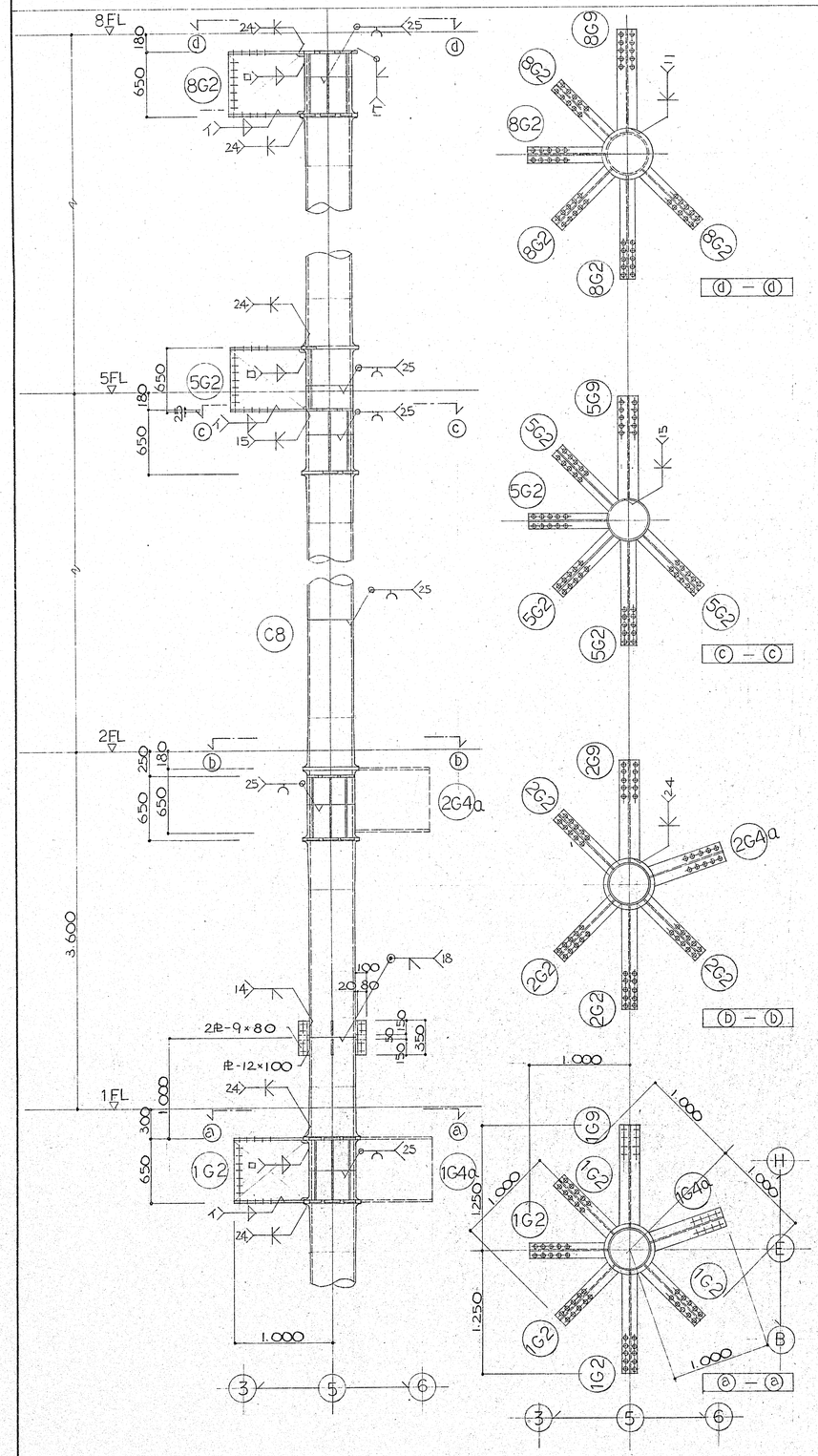
府中駅北口市民施設(仮称)新築工事

鉄骨詳細図 (1) 1/30

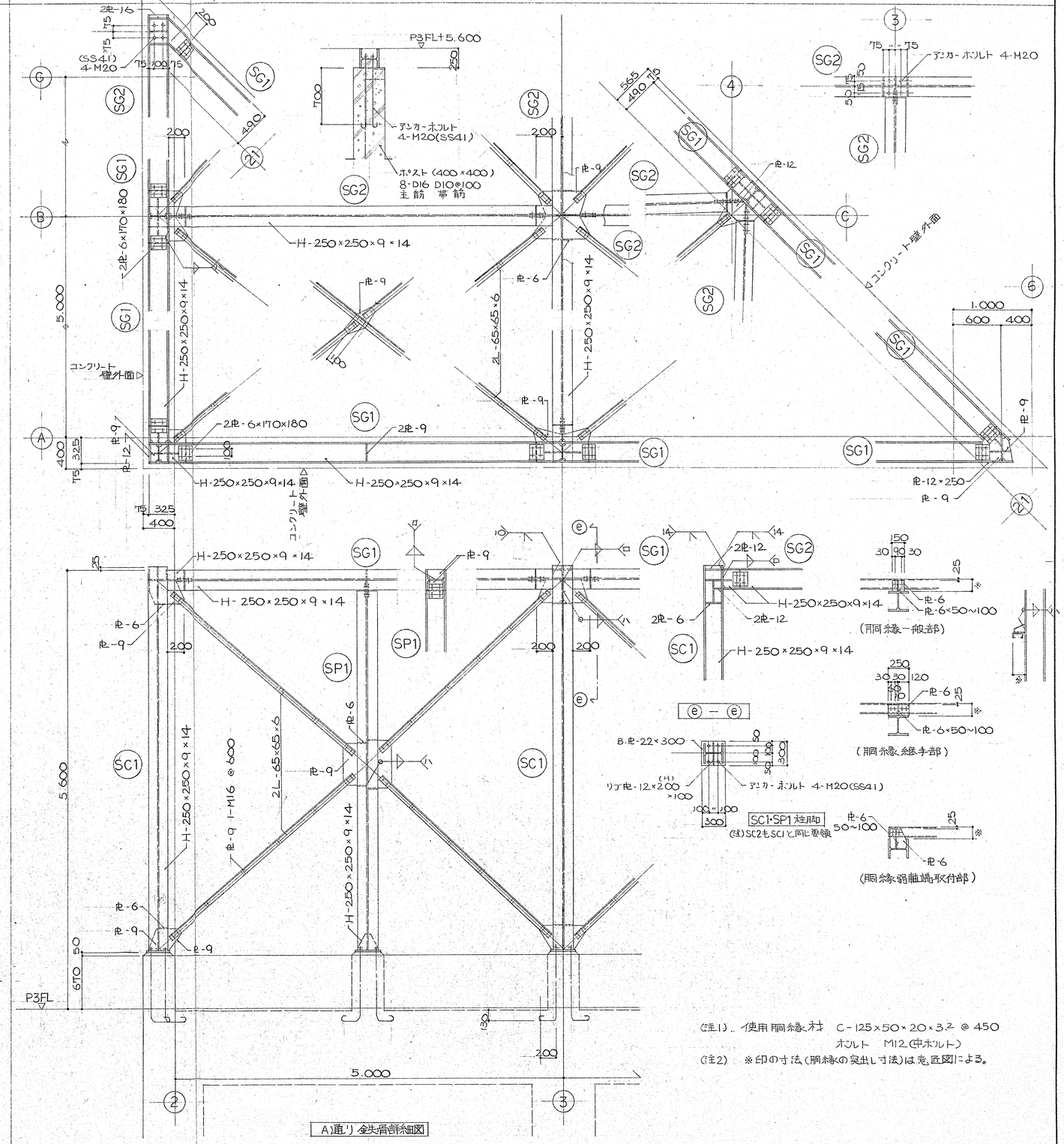
構 36 − 31

No. T − 521122

鉄骨加工要領図



広告塔鉄骨詳細図



(注1) 使用間同縁材 C-125×50×20×3.2 @450
ボルト M12(中ボルト)
(注2) ※印の寸法(間縁の突出し寸法)は意匠図による。

A)通り 鉄骨詳細図

竣工	53. 1. 16	共通事項	1. 溶接符号において ⌐⌐14 ・ ⌐⌐15 の適用範囲は下記に示す。 PL-19以下 ⌐⌐14 PL-22以上 ⌐⌐15
設工	55. 7. 30		2. 溶接符号において ⌐⌐23 ・ ⌐⌐24 の適用範囲は下記に示す。 PL-19以下 ⌐⌐23 PL-22以上 ⌐⌐24
監理	建設部		3. ボルト表示 ＋ M20 (FOT) ピッチ @70 へりあき 40 はしあき 40
施工	中央工務店		⊕ M22 (FOT) 〃 @80 〃 40 〃 45

府中駅北口市民施設(仮称)新築工事

鉄骨詳細図 (2) 1/30

構 36－32

No. T－521122